

スローライフって？

スピードや効率性が重視され、経済的・物質的な豊かさが求められる社会の中ですが、ちょっと立ち止まってみましょう。これまで急いでいて見えなかった何かが見えてくるはずです。

「ゆっくり、ゆったり、心ゆたかに」

- ・ マイナスイメージと見えることからプラスを探していく
- ・ これまで見過ごしていたことの中にある良さに気づく
- ・ 結果だけでなく過程を楽しむ
- ・ 地域の自然・歴史・伝統・文化・食を大切に暮らす
- ・ 感性を磨き、みずみずしい人間関係を取り戻す

このような価値観の変化で、新しい暮らし方をつくりあげ、生活の質を高めようというものです。

もちろん、スピードや効率性も大切であるということ認めながら・・・





スローライフがもたらすもの

「スローライフ」は、つきつめていくと、私たちの暮らし全般に関わるものだということがわかってきます。一人ひとりの生活の豊かさを考えることから始め、そのためにはどうあるべきかをたどると、さまざまな施策にいきついていきます。

小城流のスローライフプランを作るにあたり、小城市にある「スローライフの種」を探してみると、実にバラエティー豊かな「種」がみつかりました。※「種」は市内にある資源です。

人口約47,000人、面積95.85km²というコンパクトな「小城市」だからこそ歴史・伝統・文化が凝縮されています。その種をみんなで育て、豊かな素材を生かし、住みよい環境、溢れる文化をつくりあげていけるのだと思います。

「スローライフ」の意識と言葉を基に、市民がつながり、個性豊かに活動していけば「質の高い」小城市がつくられていきます。



スローライフによって

具体的にどうなる？

たとえば・・・

ひと編

いろんな昔の知恵を知りたくなる→人生の先輩方に教えてもらう→高齢者が先生となる教室が開かれる→高齢者が心身ともに元気になる→みんなが健康的なまちへ

環境編

野草が食べられるの？と食べてみたくなる→ゆっくり山を歩いてみる→きれいな空気とかげがえのない自然に触れる→自然を大切にしなければと思う→行動にでる→自然環境のすぐれたまちへ

食べ物編

小城市に安全でおいしい食材がたくさんあることを知る→組み合わせておいしい1品（ブランド品）ができる→ご近所の評判となる→商業ベースにまでのってしまう→農業も経済活動も活性化する

交通編

小城をもっと知りたくてゆっくりサイクリングをしたくなる→意外と走りにくいと感じる→歩行者や自転車にやさしい道を考えるようになる→安全なまちへ

景観編

天山の見える景色は素晴らしいと感じる→その素晴らしい景色を大切にしたいと思う→建築物の高さや、広告物について気になりだす→景観を守るまちへ

おもてなし編

小城の歴史や文化財について知りたくなる→図書館やインターネットやいろんな講座で勉強する→人にも教えてあげたくなる→市外からの来訪者へのボランティアガイドになる→交流の輪が広がるまちへ

ご近所編

近所のおばあちゃんのことを気になりだす→時々声をかけに行く→姿が見えないと病気かな？と思う→突然の災害の時にはおぶってあげようと思う→安全・安心なまちへ

…このように、ちょっと立ち止まってしてみると、いろんな角度で考えることができ、さらにつぎへつぎへと広がっていくことが予想されます。



小城市流スローライフのテーマ

小城市らしいスローライフってなんでしょう？

各地で「スローライフ」運動が展開されていますが……

私たち小城市も小城市ならではの「スローライフ」を考えてみました。

そのテーマは、

『^{やま}天山から^{うみ}有明海へ水つむぎ』

まず、全国へ発信する時に「有明海」という言葉ははずせないと考えました。「天山から」を加えることにより小城市全体を表現します。そしてもう一つのキーワードが「水」です。小城市は天山山系から流れてくる「水」でつながっています。

「水」には水害など怖い面もありますが、環境をつくり、私たちの命を守っています。

名水百選に選ばれている水、江里山地区の甘露水などの「水」が流れ、お米も麦も、全ての農作物、鯉料理、お酒、羊羹、サイダー、素麺も育て上げ、やがてその「水」は宝の海有明海へとたどりつき、日本一を誇る海苔など有明海の恵みを私たちに与えてくれます。そしてその水のそばで私たちの暮らしが営まれているのです。

天山から有明海までの多様な資源とそれをつむぐ「水」を大切にする小城市のスローライフを、市民（個人、団体、事業所、行政）が一緒に考え、質の高い美しいまちを目指して共に行動し、さらに次代へつなげていきましょう。

